

「究極」の子供部屋とトイレを実現

リフォーム 早稲田ハウス (千葉県松戸市)

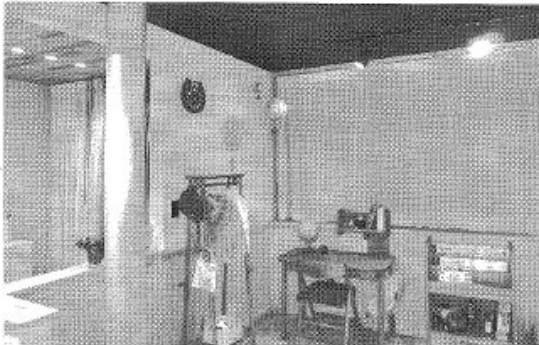
10月14日、早稲田ハウス(千葉県松戸市)はショールーム「きれいなたねLiving」を松戸市にオープンした。同社が5年前から販売している「究極の寝室」に加え、新たに「究極の子供部屋」と「究極のトイレ」を展示している。「なぜリフォームをするのか? それは暮らしを豊かにするためだと思うのです。スベックやデザインも大事だが、健康住宅は「人生が変わる住まいづくり」です。引越しは始まり。住めば住むほど良くなります」と語る代表取締役社長の金光徳氏。健康住宅に懸ける想いを聞いた。

睡眠障害の子供を救いたい

代表取締役社長
金光徳氏



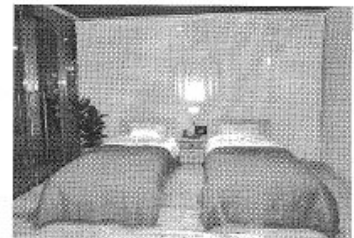
「究極の子供部屋」の天井と壁には、消臭効果のある炭が塗られている。壁には、その上から調温機能のある天然珪藻土を塗布。さらに珪藻土の石などからできたO・Dリキッドという天然抗酸化水溶液を吹き付けている。有害物質を分解し、ニッパウスキの柱があるところだ。抱きついたり、隠れたり、登ったり、使いは自由。「子供たちにとって拠り所になってくれたら」と金光氏は語る。



柱が特徴的な「究極の子供部屋」

「究極の子供部屋」を造ったのは、日本に不登校の子ともが12万人おり、そのうちの3人に1人は睡眠障害だと知ったことがきっかけだった。「子供たちにくすり眠ってほしい。そのために私たちの技術を生かして何かできないかと思った

「健康な家づくり」、生涯現役



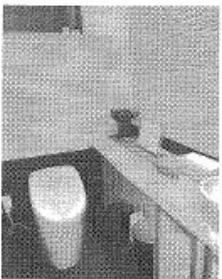
▲睡眠の質を高める「究極の寝室」

のです」と金光氏。

「究極のトイレ」も子供部屋と同じように自然素材を用い、洗面台は杉の板でできている。唯一ひとりになる場所であるトイレを添え物ではなく、価値ある空間ととらえ、LDK+R(レストルーム)の家を提案していく。「嫌なことがあっても、リセットできるような癒しと安らぎの空間に」と金光氏。

「アトピーに苦しむ女の子との出会い」

1977年に設立され、40周年を迎えた早稲田ハウス。はじめから健康住宅を造っていたわけ



▲癒しと安らぎを自覚した「究極のトイレ」

で自然素材を使って家を造りました。すると、娘さんのアトピーが多くなるようになってきました。そのとき金光氏は健康でない家を造らないと決めた。同社の健康住宅に住むようになった人々か

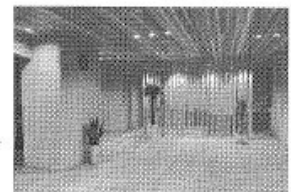
はない。「合板やビニールクロスを用いた普通の住宅を向の疑いもなく造っていました」と語る金光氏。転機が訪れたのは10年前。

「30周年を迎えて、先々のことに思いを巡らせました。そしてお客様はどうしてうちを選んだのか、他社との違いを考えたとき、大きな違いがないと分かったのです。早稲田ハウスならではのものが欲しいと思いました」

「究極の寝室」だ。人生の3分の1は睡眠時間といわれており、人間は眠っている間も呼吸をし続ける。その呼吸が化学物質やハウスダストを含んでいけば、眠りの質は下がるばかりだ。「外の空気は変えられなくても、家の中の空気は作ることができます」と話す金光氏。

「究極の子供部屋」だ。人生の3分の1は睡眠時間といわれており、人間は眠っている間も呼吸をし続ける。その呼吸が化学物質やハウスダストを含んでいけば、眠りの質は下がるばかりだ。「外の空気は変えられなくても、家の中の空気は作ることができます」と話す金光氏。

金光氏は「これからもリフォームを考える人たちに健康住宅を提案していきたい。お客様の喜ぶ顔を見られる、とてもやりがいを感じています。だから生涯現役、定年はなしと決めました」と語った。



▲ショールーム内の講座スペースでは、ヨガなどのワークショップも開催予定